

脱炭素化

川崎市の具体的な取組

脱炭素社会の実現に向けて川崎市が推進している具体的な取組を紹介します。

再生可能エネルギーの普及拡大



太陽光パネル（麻生市民館）

企業に対しては補助金制度や義務制度などを活用して、再エネ設備の導入を推進していきます。このような再エネ設備は、必要な電力を自前でまかなうことができることから、台風、洪水など気候変動の影響による大規模自然災害の際にも効果を発揮します。

川崎市のごみ焼却処理施設では、市内で収集したごみを燃やす際の熱を活用し、CO₂を出さない再エネ電力を発電する「廃棄物発電」を行っています。2023（令和5）年度に橘処理センターが稼働すると、市の廃棄物発電能力は飛躍的に向上します。今後、廃棄物発電の余剰電力を公共施設や市内民間施設へ供給することで、再エネの地産地消を図っていきます。

また、区役所などの公共施設には太陽光パネル等の設置を進めているほか、住宅や中小

環境に配慮した製品・サービスの開発と浸透

川崎市には、優れた環境技術を有する企業が多く立地し、脱炭素社会の実現に向けた先進的な技術開発も活発に行われています。

環境に配慮した製品・サービスの開発と浸透を促進するため、原材料調達から廃棄・リサイクルまでのライフサイクル全体を通じて従来製品等と比較し、CO₂がより削減された川崎発の製品・技術等を「川崎CNブランド」（2022（令和4）年度までは「低CO₂川崎ブランド」）として認定し、「川崎国際環境技術展」など様々な機会を通じてPRしています。



低CO₂川崎ブランド'22 認定製品

脱炭素モデル地区における市民の行動変容の促進



様々な脱炭素アクション

「脱炭素アクションみぞのくち推進会議」では、今まで接点のなかった事業者・団体が繋がっていくことで、連携による新しい事業・プロジェクトを創出しています。

こうした取組などが国に評価され、本市は、地域の特性に応じた国の先行モデルケースとして脱炭素の取組を進める「脱炭素先行地域」に選定されました。

高津区溝口周辺地域は、川崎市の脱炭素モデル地区「脱炭素アクションみぞのくち」です。ここでは、再エネ、資源循環、シェアサービスなど、脱炭素化に資する身近な取組や先進的な取組を集中的に実施し、取組の効果や利便性を実感してもらうことで、市民一人ひとりが環境に配慮したライフスタイルに向けて自身の行動を変えていくことを目指しています。また、モデル地区で脱炭素に取り組む事業者・団体が集まり発足した「脱炭素ア



Carbon Zero Action
MIZONOKUCHI

